グランプリ東北（CVG東北）

ごあいさつ

CVG東北実行委員会
委員長　**高橋　宏明**

キャンパスベンチャーグランプリ東北実行委員会を代表して、入賞された皆さんに心からお祝いを申し上げます。皆さん、本当におめでとうございます。今回で、このグランプリも6回目となり、応募件数はこれまでで最多の51件となりました。指導をして頂いている教官の皆さまのおかげにより、学生の皆さんにも実学を意識した研鑽（けんさん）の機会として、この取り組みが広く受け入れられてきているものと評価しております。

今回受賞された8件の提案内容を見てみますと、最優秀賞は「スマートフォンアプリによる書籍のプロモーション」が選ばれました。これは、スマートフォンのユーザーに好みの電子書籍を紹介するアプリケーションソフトの開発・活用であり、まさに、電子書籍元年と呼ばれた今年を象徴している提案だと思います。そのほかには、高齢化社会の到来や健康への関心の高まり、国際化への対応などの社会変化に着目した提案に優れた内容が多く、また技術的な観点からは、発光ダイオード（LED）や3D映像などの最新技術を用いた提案が目を引きました。

「考え抜く力」を鍛え、より遠くを見つめること

「必要は発明の母」という言葉のとおり、「これがあれば便利になる」「これが出来たら楽しくなる」「これがあればみんなに喜ばれる」といった発想を膨らませることから始まり、具体的な事業計画として取りまとめられるということは、企業が求める「考え抜く力」を備えた人材の育成につながります。キャンパスベンチャーグランプリの取り組みに実行委員会も大いに期待しております。

昨年は、「はやぶさの奇跡の帰還」が日本に明るさと元気を与えてくれました。数々の故障・トラブルを、チームワークとあきらめない心で乗り越えてきたことに、多くの人が感動しました。「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーを務めた川口淳一郎さんは、「高い塔を建ててみないと新たな水平線は見えてこない」と話されています。みなさんも、今回の受賞を一つの契機として、より高いところから遠くを見つめ、これからも一層研鑽を重ね、ますますご活躍されることを祈念しております。

（東北経済連合会会長）

最優秀賞に西原さん（宮城大）ら

8件に栄冠、きょう表彰式

東北地域の学生による新事業の提案コンテスト「第6回キャンパスベンチャーグランプリ東北―CVG東北」で8件の受賞者が決まった。今回は共同提案を含め11の大学・短大などから51件の応募があり、審査の結果、最優秀賞に宮城大学の西原政比彦さんらがグループで応募した「スマートフォンアプリによる書籍のプロモーション」が選ばれた。このほか東北経済産業局長賞などの特別賞2件、奨励賞3件、努力賞2件が入賞した。入賞者には3日に仙台市青葉区のホテルメトロポリタン仙台で開かれる表彰式で、賞状と盾、賞金が授与される。

CVG東北はキャンパスベンチャーグランプリ東北地区4産業人クラブ（東北実行委員会の主催、東北電力、東京エレクトロンAT、マイクロソフトが協賛している。さらに東北経済産業局、東北6県、仙台市、東北経済連合会、東北六県商工会議所連合会、東北ニュービジネス協議会、産業技術総合研究所（産総研）東北センター、みやぎ工業会が後援している。

審査委員長の原田晃産総研東北センター所長と6人の審査委員で厳正に審査。新規性、独創性、事業実効性、市場性などの側面から評価した。今回、応募のあった大学・短大などは次の通り（順不同、グループ参加校含む）。

東北大学、東北学院大学、東北工業大学、宮城大学、山形県立産業技術短期大学校、米沢工業高等学校専攻科、会津大学、福島大学、八戸工業大学、秋田県立大学、東北外国語観光専門学校

3日は表彰式に続いて宮城産業人クラブ会員を中心とする企業経営者らと学生との交流パーティーを開く。

最優秀賞

スマートフォンアプリによる書籍のプロモーション

宮城大学　西原　政比彦さん
同　新藤　理恵さん
東北大学　前田　賢人さん
東北大学大学院　平野　裕作さん

西原　政比彦さん

「心にささる本」との出会い提供

人が一生の内に手にできる本の数は、世にあふれる本の数と比べると本当に少ない。だが自分が知らない本の中に、自分の心に「ささる」本がもっとあるのではないか。本事業はそういったユーザーにとって未知の、しかし心に「ささる」本を届けるサービスである。

出版市場は年々減少しているが、電子書籍の本格導入などにより書籍コンテンツ数は今後増え続ける。そういった状況下において出版社と読者にそれぞれ新たなニーズが生まれる。出版社は増えたコンテンツの中でどう自社のコンテンツを周知させるかというニーズ、読者は自分に合ったコンテンツをどう探すかというニーズである。

本事業は知名度が低い中小の書籍発行母体からコンテンツを集める。そしてスマートフォンアプリを通して、ユーザーの好みに応じてコンテンツを届け試し読みができるようにする。

書籍コンテンツをレコメンドして届ける機能を有するものは既に存在しているが、それらはユーザーに新しいコンテンツを届けるというよりも別のものを買わせるというところに軸が置かれている。例えば同作者の別作品や最近話題になっている作品がレコメンドされることが多い。

本事業は未知のコンテンツ群を用いて、ユーザーの好みを起点に別角度からコンテンツをレコメンドする。このようにして未知の本との出会いの場を創造する。

特別賞

東北経済産業局長賞

東北大学大学院　山口　尚裕さん
同　鈴木　絢子さん
東京大学　後関　龍彦さん

山口　尚裕さん

姿勢の矯正を補助

「サイバーウェアシステム」～誰もがモデルやアスリートのフォームに近づけるハイテクウェアの販売事業～

本事業「『サイバーウエアシステム』～誰もが理想のフォームに近づけるハイテクウエアの販売事業～」は、姿勢制御インナー「サイバーインナー」の製品化によって、人々の健康に貢献することを目標としている。

サイバーインナーは、インナーに取り付ける角度検知センサーと機械制御によって、ユーザーの姿勢の矯正を補助する。また、日々の姿勢の状態を携帯電話、PCで確認できるようなシステムを構築するほか、インナーに連動するアプリ、モデル歩きを再現できるデータベースを販売する予定だ。

我々は開発とアフターサービスに特化し、製造、物流などは外注しファブレスメーカーとなることにより、約25％という高い利益率の確保が期待できる。

特別賞

日刊工業新聞社賞

山形県立米沢工業高等学校専攻科
情野　浩子さん
竹田　大和さん
高橋　りなさん

情野　浩子さん

足下を照らし安全に

明かりでつなぐ人の輪～新型車いす照明「Ｎｉｇｈｔ―Ｌ」の販売事業～

腰痛とひざの関節の痛みから日常生活に不便を感じている祖母の姿を見て、これからますます進む高齢化社会に向けて、福祉用具を作れないかと考えた。そこで、福祉施設や介護施設で福祉用具の使用状況や課題などの現状調査を実施したところ、日没後の「車いす利用」について、車いすに適した照明がなく、利用者が不便さを感じていることが分かった。

「車いす利用者が安心して利用できる照明」をテーマにした製品開発を検討。試作を繰り返してフットプレートを利用した照明装置を完成した。これを特許出願したことから、「商品として売れないか、車いす利用者の生活習慣を外向きにできないか」などと考え、車いす利用者の「自立」と利用者を取り巻く環境の「共生」をコンセプトとした事業を考案した。

CVG東北実行委員会　（敬称略）

委員長	高橋　宏明	（東北経済連合会会長）
委　員	豊國　浩治	（東北経済産業局長）
	大山健太郎	（東北ニュービジネス協議会会長）
	山城　巌	（みやぎ工業会副会長）
	工藤　治夫	（宮城産業人クラブ会長）
	松村　英一	（山形産業人クラブ会長）
	立石　吉識	（福島産業人クラブ会長）
	菅　榮藏	（いわき産業人クラブ会長）

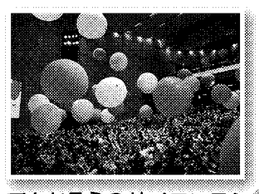
東北電力は、東北6県と新潟県の子どもたちを応援しています。

【次世代支援プロジェクト】

放課後ひろば
夢のびのびと、伸ばしてあげたい。

―地域とともに、地域のために―　それが東北電力の変わらぬ思い。
私たち東北電力は、次世代支援プロジェクト「放課後ひろば」のもと、
芸術・文化、スポーツ、社会、科学、さまざまなジャンルで
地域の未来を担う子どもたちの個性や才能を
のびのびと育てる環境づくりをお手伝いしています。

親子名曲コンサート
スクールコンサート
中学生作文コンクール
東北ミニバスケットボール大会
エネルギー出前講座
職場体験訪問


でんじろうのサイエンスショー

芸術・文化のひろば
●スクールコンサート
●親子名曲コンサート
●中学生作文コンクール
など

スポーツのひろば
●東北ミニバスケットボール大会
●各種スポーツ大会の開催　など

社会のひろば
●職場体験訪問
●ものをつくるしごと
（ホームページ）など

科学のひろば
●でんじろうのサイエンスショー
●エネルギー出前講座
●電気と科学のひろば
（ホームページ）など

詳しくは東北電力のホームページへ
放課後ひろば　検索

東北電力